

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, June 2013

課長：佐藤 裕久 *H. Sato*

幹事：下元 繁男 *S. Shimomoto*

○ 6月の状況 (佐藤)

☆ C/2011 L4 (PANSTARRS) (写真 a, b)

彗星課メーリングリスト (oaa-comet ML、以下同じ。)等に寄せられた報告は次のとおり。

6月12日13:10、関勉 OAA 顧問から「台風一過ではありませんが、予想通り快晴となりました。四国地方の天気予報では向こう一週間も曇天または雨天。台風3号は四国の南を東北に向います。台風が四国の東側を行き抜けたら、その日のうちから、晴天が追いかけてきます。1965年の池谷・関彗星発見の時には、そのような予想の下に観測の計画をたてました。天気予報を信じていたら発見はありませんでした。气象台も大勢にのまれて細かい予報は出来ないようです。見事に予報が外れた例です。私は自分なりの予報を立てて行動しているのです。パンスターズ彗星とC/2012 F6の今朝の画像です。パンスターズ彗星の長いアンチテイル?は影を潜めたようです。両彗星共に一段と暗くなりました。しかし無論眼視で立派に見えています」とのコメントと画像案内があった。

13日12:41、張替憲(千葉県船橋市)から「6月5日未明の光度観測です。C/2011 L4は依然集光が強く、一方、長く伸びたアンチテイルは淡くなってきました。C/2012 F6は青い円盤状のコマから尾が2方向に伸びています。デジタル一眼のRAW画像のG画像のみで測光、観測地は九十九里海岸です」とC/2012 F6 (Lemmon)を含めたコメントと眼視光度等の観測報告が

あった。

☆ 26P/Grigg-Skjellerup

8日21:56、佐藤英貴氏(東京都大田区)から「東京は梅雨入りしてから、よく晴れるようになりましたが、リモート観測所は悪天候の日が多いです。…26Pは5/25には恒星状に近かった(17.8等、コマ直径5")ですが、2週間で急増光し、1'程度のコマを持つ彗星に化けました。近日点通過を来月に控え、今後さらに増光するでしょう。…」とのコメントと他の彗星とともに位置観測報告があった。

同日23:54、吉田誠一氏(神奈川県横浜市)から「佐藤英貴さん、こんばんは。吉田誠一です。いつも貴重な観測報告をありがとうございます。…光度グラフを更新しました。今回もいつも通り、近日点の直前になって急増光を始めたようです。…」とのコメントと光度グラフの案内があった。

<http://www.aerith.net/comet/catalog/0026P/2013-j.html>

○ 6月に発見・検出された他の彗星

☆ P/2006 R2 = 2013 L1 (Christensen) J. V. Scotti (月惑星研究所:LPL, Arizona 大学)の通報によると、6月1日UTと4日UT、Kitt PeakにあるSpacewatch 1.8-m反射望遠鏡で得た画像から21.5等から22.3等のP/2006 R2を検出した。120秒9枚のスタック画像で

は限界に近く、まだこの天体は微かな恒星状に見えていた。MPC 75735 の B. G. Marsden の予報に対し、Delta(T)は、 -0.78 day であった (CBET 3541, 2013 June 4)。

☆ C/2013 L2 (Catalina) 6月2.30日 UT、R. A. Kowalski は、Catalina スカイサーベイの 0.68-m Schmidt 望遠鏡で得た画像から 19.6 等の外見上の小惑星状天体を発見した。小惑星センターの NEOCP webpage に公表後、R. Holmes (Ashmore, イリノイ州; 0.81-m f/4 アストログラフ: 6月2.4日 UT に得た 15秒 90枚のスタック画像から、S. Foglia は、8" の丸いコマと p. a. 158° に 20" の尾が見えていることを書き込んだ) や佐藤英貴氏 (東京都大田区, iTelescope 天文台, 0.43-m f/6.8 アストログラフ, f/4.5 レデューサー付, Mayhill 近郊, ニューメキシコ州, 遠隔操作) ら他の CCD 位置観測者によって彗星状と観測された (CBET 3548, 2013 June 9)。

☆ P/2013 CU₁₂₉ (PANSTARRS) 2月13日 UT、Haleakala の 1.8-m Pan-STARRS1 望遠鏡で得た画像から 21.0 等の外見上の小惑星状天体が発見され、MPEC 2013-D15 に 2013 CU₁₂₉ の仮符号がつけられ発表された (2月1日に発見前観測があった)。6月2日 UT、Peter Veres, Richard Wainscoat, Henry Hsieh と Marco Micheli が、Pan-STARRS 望遠鏡で得た 4枚の w バンド画像から p. a. 約 90° に 4" の短い尾のある彗星状であることがわかった。6月5.28日 UT、Micheli と Wainscoat が、Mauna Kea にある Canada-France-Hawaii Telescope で得た r バンドフォローアップ観測から、p. a. 約 100° に明確な 40" の尾が見

えた (CBET 3558, 2013 June 13)。

○ 他の明るい彗星

比較的明るい彗星は、C/2013 E2 (Iwamoto)、C/2006 S3 (LONEOS) (写真 d)、63P/Wild、29P/Schwassmann-Wachmann、117P/Helin-Roman-Alu、C/2010 S1 (LINEAR)、C/2011 J2 (LINEAR)、P/2012 B1 (PANSTARRS)、C/2012 K6 (McNaught)、C/2011 R1 (McNaught) 等であった。

○ 第43回彗星会議

6月15日、16日の二日間、福島県田村市星の村天文台において「第43回彗星会議」が開催された。

今回は復興支援彗星会議と銘打った会議で全国から 68名の参加者があった。会場は今までにはないプラネタリウム館で行われた。

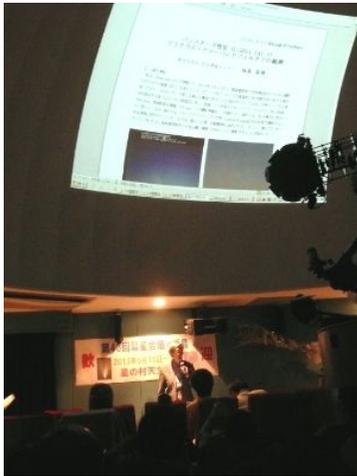
初日は開会式の後、中村彰正氏による「2012年の彗星発見・観測のまとめ」と吉田誠一氏による「2012年の主な彗星の光度変化」という恒例の彗星レビューがあった。続いて星の村天文台長の 大野裕明氏による放射能被害報告「福



65cm 反射望遠鏡 (絆: KIZUNA)

島の現状」という特別ミニ講演があり、東日本大震災で壊れた三鷹光器製 65cm 反射望遠鏡から替った昭和機械製作所製 65cm 反射望遠鏡（絆：KIZUNA）を見学した。

休憩後、菅原賢氏「力学モデルで探る彗星の尾～アイソン彗星のダストテイル～」、福島英雄氏「パンスターズ彗星のナトリウム・ナロー



研究発表の様子

バンドフィルタでの観測」、佐藤勲氏「彗星名の発音調査および小惑星カルダエアの掩蔽について」、佐藤英貴氏「リモート天文台を利用した天体観測について」、鈴木文二氏「彗星物理入門・分光と偏光」、石井達朗氏「アイソン彗星の尾に negative polarization は観測されるだろうか」の研究発表が行われた。

懇親会は場所を移して「星の村ふれあい館」で行われ親交を深め合った。この席で、福島県

の小学生を対象とした「ほうき星のイラストコンテスト」の二次審査があり一次審査で選ばれた 17 作品を一人一票の投票で選び最優秀賞 1 点、優秀賞 2 点を選んだ。

二次会は天文台大広間に移り午前 2 時過ぎまで語り合った。

二日目は加倉井厚夫氏「1910 年保坂嘉内ハレー彗星スケッチ調査」、棚山義次氏『星の王子さま』ハレー彗星説の研究発表が行われた。

分科会は、とことん討論分科会:座長吉田誠一氏「このまま ICQ の休眠状態が続いたら、どうするか」、とことん学習分科会:座長鈴木文二氏「彗星物理入門・分光と偏光 2」、とことん工作分科会:座長菅原賢氏「ドライアイスで彗星核をつくる」に分かれ討論、学習や工作を行った。

休憩の合間には、実行委員会が準備した会津の起き上がり小法師の絵付け体験をした。

特別講演には会津大学寺菌淳也准教授による『「はやぶさ」から「はやぶさ 2」へ…小惑星への新たな挑戦』という題の話があった。

今回の彗星会議については、薄謙一実行委員長による詳しいレポートがアストロアーツの天文ニュース(6月24日)に掲載されている。

なお、次回の彗星会議は愛媛県松山市で開催される予定である。



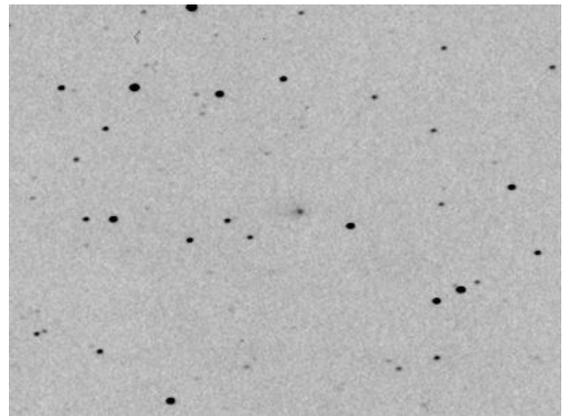
(写真 a) C/2011 L4 (PANSTARRS)
2013, 06, 04 00h15.0m-36.9m (JST)
exp. 60s×20 TOA130 + CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 b) C/2011 L4 (PANSTARRS)
2013, 06, 08 00h46m (JST) exp. 5m×4
300mmF2.8L+1.4× EOS5Dmark 撮影地:人形峠
鳥取県倉吉市 松本博久氏



(写真 c) C/2012 F6 (Lemmon)
2013, 06, 05 02h33.0m-54.9m (JST)
exp. 60s×20 TOA130 + CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 d) C/2006 S3 (LONEOS)
2013, 06, 03 23h23.0m-33.9m (JST)
exp. 60s×10 TOA130 + CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏

● 光度等観測報告

C/2011 L4 (PANSTARRS) (写真 a、b)

2013	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
June	4.66	9.9	1.7'	7	8'	157°	2/5	-	EOSX3*	張替憲	①②③④
	4.70	9.6	3.2	4	2	150	4/5	-	61×30cmL	永島和郎	⑤⑥

C/2012 F6 (Lemmon) (写真 c)

2013	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
June	4.73	8.4	4.7'	5	16'	185°	4/5	-	61×30cmL	永島和郎	⑤⑦
	4.75	7.7	3.4	7	25'	216	2/5	-	EOSX3*	張替憲	①②⑧⑨

*200-mm f/2.8 lens

① 観測地：九十九里海岸 ②45秒露出 ③ p. a. 4° に 101' のアンチテイル ④ 依然集光が強く、一方、長く伸びたアンチテイルは淡くなってきた ⑤ 観測地：奈良県上北山村（北）H=1160m、⑥ p. a. 5° に 54' のアンチテイル(前回 5月21日に比して、かなり淡い。首の所が細く見える以外、同じ幅に細く長く見える。前回同様に、首元から終端までの明るさがほとんど同じ。但し、首もとの所は他よりも少し暗いような気がする) ⑦ 極めて淡い、扇状の尾 ⑧ 月あり ⑨ 青い円盤状のコマから尾が2方向に伸びている (p. a. 260° にも 15' の尾)